

## <第1回委員会の委員意見の整理>

### 1 岡崎地域の現状

#### (1) ポテンシャル

##### ■近代化を牽引してきた歴史、多様な資産の集積

- ・岡崎は京都のまちづくり史においても重要な地域。(大島委員)
- ・様々な見どころルートが存在する。これだけの近代遺産の集積は、国内では、上野、岡崎の他にはない。(近代建築物鑑賞コース：近代から現代の名建築を一堂に見られる。／社寺仏閣コース：清水寺→東山の社寺→平安神宮／近代遺産コース：蹴上浄水場→インクライン→水路閣→琵琶湖疏水記念館)(中嶋委員)

##### ■戦略的プロモーションの場

- ・京都の近代化に欠かせない場所であり、戦略的都市プロモーションの実践の場。(大島委員)
- ・京都を海外に売り込むとき、岡崎は核となる重要な地域である。(南委員)

##### ■豊かな景観・環境

- ・景観的には、岡崎地域は、平地の中に森が浮かんでいるように見える。(中嶋委員)
- ・本来、京都こそ水の都である。(橋爪委員)
- ・これほど庭園群が集積したのは東山の借景があったから。(森本委員)
- ・美しい環境には人の手が入っている。岡崎はそうした資源が集積している。(森本委員)

##### ■豊かな公共空間

- ・岡崎の強みは公共施設、道路、公園などの豊かさ。(大島委員)

#### (2) 課題

##### ■情報発信が弱い

- ・どこで何の展示会をしているのか、今は情報が分かりにくい。(上村委員)
- ・ガイドブックなど、岡崎の地域を紹介する情報が不十分。(中嶋委員)
- ・京都駅の総合観光案内所でも個別施設のパンフはあるが、岡崎地域を紹介した情報はない。(中西委員)

##### ■「コンテンツ力」が不足

- ・岡崎の弱みは賑わいを産み出すコンテンツ力。(大島委員)
- ・世界で文化の殿堂といわれる地域にはプロの業がある。岡崎にはプロのコンテンツが少ない。(小林委員)
- ・現状の京都会館は多目的過ぎて、プロには使いにくい。(小林委員)
- ・今の京都には、京都の伝統文化を感じられるコンテンツがない。(濱崎委員)

##### ■「岡崎」の知名度が低い

- ・市外には京都に「岡崎」という場所があることがほとんど知られていない。施設名称でも「岡崎」が入った施設が少ない。(中西委員)

##### ■夜がさびしい

- ・せっかく魅力的な施設が多数あるのに、夜は非常に寂しい。(澤邊委員)

##### ■ネットワークが弱い

- ・施設間ネットワーク、交通アクセスが弱い。(大島委員)

### ■地域に人が滞留，滞在する機能が不足

- ・現在の各施設は，活動が施設内にとどまり，「交流」を産み出す場にはなっていない。（村井委員）
- ・岡崎には人を滞留させる機能がほとんどない。また，複数施設を訪れるという行動様式もない。美術館を訪れた幼児，小学生がお弁当を食べる場所もない。（村井委員）
- ・人で賑わう週末にはカフェなどが出せばよいが，公園法で様々な規制がある。（村井委員）

## 2 将来像・目指す姿

### ■文化・芸術のまち

- ・10年後は，歩いて1日楽しめる文化芸術の都にしたい。（上村委員）
- ・アートで賑わうまち（高木副委員長）
- ・アート＝地域全体がアートになる。（藤井委員）
- ・内部連携などの内向きのテーマだけでなく，文化ハブ機能としての外部向けの発信力にも注目したい。（村井委員）

### ■近代～未来を感じることができるまち

- ・岡崎を近代・現代の「文化の杜（森）」に（中嶋委員）
- ・明治近代をイメージさせるまち（中西委員）
- ・近代→現代→未来へ向かう岡崎でありたい。（高木副委員長）
- ・環境都市，景観都市，健康都市，コンベンション都市などの最先端のテーマが当てはまる地域。（門内委員長）

### ■優れた景観，文化遺産が将来に継承されるまち

- ・平安神宮にとっては，10年後，100年後も変わらないことが大事なこと。（本多委員）

### ■市民が楽しみ，誇りを持てるまち

- ・住んでいる住民が誇りを感じられるようなまち（澤邊委員）
- ・市民自らが魅力を感じられる場所に。観光客を呼ぶことも大事だが，まず市民が楽しんで，大事にする地域にしたい。（高木副委員長）

### ■年中様々な行事が行われる，賑わいのあるまち

- ・歩行者天国になり，オープンカフェやアートで賑わうまち（高木副委員長）
- ・京都の季節感が映えるまち，桜，新緑，紅葉などの四季や初詣，成人式，卒業式の年中行事など，岡崎地域は，年中何かがある地域としたい。（西村委員）
- ・世界中の人で賑わうまち（西村委員）
- ・オシャレをして楽しめるまち。（大島委員）

### ■国際M I C E都市・京都の核となるまち

- ・岡崎地域と宝ヶ池で連携したM I C E戦略を進めるべき。（橋爪委員）
- ・観光によって京都が豊かになるための方策としては，①宿泊機能の充実，②M I C E振興，③中国などアジア観光客の取り込みである。（南委員）
- ・岡崎地域については，大勢の人が来るのではなく，小数のV I Pをターゲットとしたい。（高木副委員長）

### 3 方策・提案（仕組み）

#### （1） 仕組み

##### ■エリアマネジメント，地域プロデュース

- ・志を持った人のマネジメント（大島委員）
- ・集積をつなぐ仕組み＝ポテンシャルを活かすためのマネジメントが必要。（中嶋委員）
- ・エリアマネジメントが不足というレベルではなく，地域プロデュースという視点が必要。（橋爪委員）
- ・エリアデザイン，エリアプロデュースが重要。行政の力，市民の力，企業の力を如何にうまく組み合わせていくのか。この方法論がうまくいけば，京都ならではの成長戦略となるのではないか。（門内委員長）

##### ■環境（水・緑）のマネジメント

- ・全体のエリアマネジメントの中に，水や緑の保全の視点を入れることが大事。（森本委員）

##### ■民間活力の導入

- ・市の財政難の中，民間活力を如何に導入するかが鍵。そのために知恵と力を注ぐべき。（橋爪委員）

##### ■規制緩和

- ・疏水の活用のため，既存の法規制を突破するための方法論が必要。（橋爪委員）

#### （2） 個別事業

##### ■施設間連携の推進，既存施設の再生・活用

- ・美術館の集積を生かし，官民の美術館の連携を図るべき。（上村委員）
- ・岡崎に多くの人々が来られる時は，美術館や他の施設もオープンするなど施設連携をしてはどうか。（澤邊委員）
- ・古い象舎をアートスペースとして活用。（藤井委員）

##### ■京都会館を核としたまちづくり

- ・京都会館は，明確な活用イメージを持ち，それに合わせた再整備を行うことが必要。（小林委員）
- ・人が集まる劇場は周辺地域活性化の核となりうる。1日の過ごし方をクリエイトするのが劇場の使命。（小林委員）
- ・京都会館再整備に合わせ，中庭（現在は，待ち合わせ程度に使われるのみ）が岡崎の「交流」を産み出す場になってほしい。（村井委員）

##### ■武道等を通じた伝統文化の発信

- ・武道を通じ伝統文化が感じられるまち（濱崎委員）
- ・海外の人にとって，武道は日本文化の入り口。武道を通じて日本を知り・訪れ，お茶やその他の日本文化へと興味が広がる。（濱崎委員）
- ・観世会館と武徳殿など連携し，「伝統文化のプロ」を体験できる岡崎にしてはどうか。（濱崎委員）

##### ■岡崎グラウンドの再考

- ・現在のグラウンドの使い方はもったいない。（濱崎委員）

### ■夜の賑わいづくり

- ・今の施設を活かすためにも夜の賑わいがあるといい。(澤邊委員)
- ・「岡崎らしい夜」を考えたい。(西村委員)

### ■物語を活用した情報発信や知名度向上

- ・近代が持つ物語性の活用，岡崎に来れば何か楽しいことがあるという期待感の演出などがポイント。(大島委員)
- ・「岡崎らしさ」をもっと外部に知らせたい。京都の心意気，近代の人の努力を知ることが大事。「物語」が必要。(藤井委員)
- ・近代をイメージさせる赤レンガ，ガス灯などで整備。(中西委員)
- ・世界的な知名度向上等のためにも「八角九重の塔」を再現したい。(中西委員，濱崎委員)
- ・八角九重の塔の再現は，インパクトのある事業として，遷都 1200 年の際にも話題になったが，実現が難しいと立ち消えになった。(村井委員)

### ■来訪者の利便性，回遊性の向上，歩いて巡るまちづくり

- ・事前申込みなしでも気軽に利用できるコンテンツ。(上村委員)
- ・来訪者に分かりやすいまち，地域内の案内標識の充実。(太田委員)
- ・市内の美術館や博物館をつなぐ循環バスの運行。(太田委員)
- ・歩いて巡るにもちょうど良い地域。岡崎にも観光センターを設置。(中西委員)

### ■水を生かしたまちづくり，様々な資源を生かした新しい公園

- ・琵琶湖疏水の利活用が重要。(橋爪委員)
- ・従来の都市公園（木を植えて，池を造って）を超え，岡崎地域も周辺の資源・遺産集積を活かした新しい公園の概念をつくるべき。(橋爪委員)

### ■催し，イベント発信

- ・年中行事カレンダーを作りたい。(西村委員)
- ・「岡崎の日」を作り，イベントを通じ，市民に岡崎の魅力を知ってほしい。(高木副委員長)